

あとがき

- 二代真柱様から本校生物室貝類標本をお預かりし喜多前校長より整理を命じられたのが昭和 40 年春、寮と学校勤務の多忙もあって荏苒日を空しくするうちに昭和 42 年秋に二代真柱様のお出直しに遭遇し、自己の怠慢を翻然悔悟としてダンボール箱から標本をとり出して配列に着手してから満 6 年に垂んとしてようやくまがりなりにも標本整理と目録作成を終わって、かろうじて私の定年退職直前、滋に二代真柱様と江原先生のご霊前にお供えすることができました。菲才（ひさい）のわたくしに対して黒田徳米先生、波部忠重先生のご指導を得ましたことならびに喜多、中山校長両先生をはじめ関係各位のご配慮を得ましたことを心より感謝しております。
- もともと貝類と言えば、アサリ、ハマグリ、サザエ、庭のカタツムリぐらいしか見たことない私にとって、ダンボールからとり出された 1,800 点の標本はただ茫然自失たらしめるものでありました。どこからどう手をつけてよいものやら、幸い大部分の標本には約半世紀のむかし黒田先生が記載された番号入りのラベルが添付してありましたので、番号順の配列からはじめ目録、カードの作成、藤本、太田両氏のご援助を得てラベル散逸標本の研究や欠番の補充等の作業で昭和 44 年夏となりました。
- 昭和 44 年夏、はじめて西宮市に黒田先生をお訪ねし、阪神貝類談話会に入会させていただいて以来、例月にわたる黒田先生の貝類綱要、菊池博士の蒐集標本、談話会会員諸氏の活発な採集、研究活動等が全く無知な私の眼を深遠な貝類の世界に一步一步引込んでくれました。そして深奥な貝類の世界に興味を覚えると同時に、二代真柱様によってもたらされた本校収蔵の貝類標本が今後貝類の採集や研究をしようとする生徒にとって極めて貴重な存在でありまた彼等に役立ててもらうことが二代真柱様の御霊に応える途であろうとの思いに駆られたわけであります。
- 校務のかたわら、しかもたかだか 3、4 年の探求では、とてつもなく大きな貝類の世界に対してもとより一知半解の徒にすぎない（つくづくもう 10 年早く着手していたらの感を深くするのですが）私によって本目録が謄写刊行されることは正に汗顔の至りであり、参考文献からの学名の引き写しから、分類配列、図版写真の選択、さては校正一つにしても甚だ自信のもてぬことでありますが、多くの方々のご教示、ご叱正を得ることができれば幸いです。なお、三年程以前に、わたしの在職中、本県陸産会研究のいとぐちでもと志したのですが、わたくしの不勉強と標本整理や本稿に追われてほとんど見るべき成果を挙げることができずに今日に至りました。（奈良県御蓋山はじめ飛鳥地方、学校近辺の古社寺にキセルガイ、キセルモドキ、アズキガイ、ケマイマイ、ナミヒメベッコウマイマイ、ヤマクルマ、ヤマタニシ等の生息することが判りました。古生層や石灰層の散見される県内には尚多数の陸産会の生息が予想されます。）今後この貝類標本を核として本校や本県高校生との多くの方々が見聞が貝類採集や研究に進まれることを念じてやみません。
- 終わりに本目録の印刷にあたり多大のご協力をいただいた育萌社の皆様に深く感謝いたします。

(1973年9月 岩下典弘)